

### 3

## 「主体的・対話的で深い学び」が実現できた姿とは

当センターでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をするに当たり、単元や題材などのまとまりの中で、授業改善の視点である「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」それぞれの学びが実現できた子どもの姿を想定し、それらの姿に結びつく手立てを検討し実践することが重要だと考えた。

そこで、独立行政法人教職員支援機構次世代型教育推進センター等の先行研究を参考にして、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点ごとに、それぞれの学びが実現できた子どもの姿を考察した。

### 「主体的な学び」が実現できた子どもの姿

「主体的な学び」が実現できた子どもの姿の例を次に示す。

#### 「主体的な学び」が実現できた子どもの姿の例

- ・ 興味や関心を高める
- ・ 見通しをもつ
- ・ 自分と結び付ける
- ・ 粘り強く取り組む
- ・ 振り返って次へつなげる

具体的には…

#### 興味や関心を高める

知的な好奇心を高めている

疑問を感じている

感動している

問題を見いだしている



### 見通しをもつ

本時や単元のゴール（目標、ねらい、めあて）をつかんでいる

結果を予想したり、仮説を立てたりしている

問題を解決する方法を考えている

### 自分と結び付ける

生活と結び付けて考えている

社会と結び付けて考えている

自分の将来と結び付けて考えている

自分事として考えている



### 粘り強く取り組む

諦めずに取り組んでいる

うまくいかなかったときに別な解決策を見いだそうとしている

### 振り返って次へつなげる

本時や単元で学んだことを、言葉や図表で表現している

本時や単元の学び（活動や内容）の意味に気付いている

本時や単元で身に付けた力に気付いている

これまでの学びを基に、新たな見通しをもっている

「主体的な学び」が実現できた子どもの姿とは、子どもが活発に取り組んでいるという外見上の姿だけではない。疑問を感じたり、見通しをもって学びに向かったり、うまくいなくても粘り強く取り組んだり、学びの意味を自覚したりする姿は、外見上は積極的に学びに向かう姿に見えないかもしれないが、「主体的な学び」が実現できている姿と捉えてよい。

### 「対話的な学び」が実現できた子どもの姿

「対話的な学び」が実現できた子どもの姿の例を次に示す。

#### 「対話的な学び」が実現できた子どもの姿の例

- ・ 互いの考えを比較する
- ・ 多様な情報を収集する
- ・ 思考を表現に置き換える
- ・ 多様な手段で説明する
- ・ 先哲の考え方を手掛かりとする
- ・ 共に考えを創り上げる
- ・ 協働して課題解決する
- ・ 教職員との対話を手掛かりとする

具体的には…

#### 互いの考えを比較する

多様な考えの存在に気付いている

複数の考え方の共通点（相違点）に気付いている

自分の考えと他者の考えの共通点（相違点）に気付いている

他者の考えを基に、自分の考えを明確にしたり修正したりしている

他者の考えを基に、自分の考えの正当性（問題点）に気付いている

複数の意見から、適切なものを選択している

### 多様な情報を収集する

子ども同士の対話から情報を収集している

地域の人々や実社会で働く人々との対話から情報を収集している

複数の資料から情報を得ている

### 思考を表現に置き換える

自分の思いや考えを、言葉で表している

自分の思いや考えを、絵などに表している

自分の思いや考えを、数式などに表している

自分の思いや考えを、身体表現で表している

自分の思いや考えを、音などで表している



### 多様な手段で説明する

目的に応じた適切な手段を選択して説明している

効果的に伝えるための工夫をしている

### 先哲の考え方を手掛かりとする

先哲の作品や思想などから、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている



## 共に考えを創り上げる

**納得解や最適解を見いだしている**

※納得解…自分が納得でき、なおかつ、周囲の他人を納得させられる解

最適解…現状から最適と考えられる解

**方針や意思について、合意形成をしている**

## 協働して課題解決する

**課題を解決するために、一人一人が自分の考えを出し合って活動している**

## 教職員との対話を手掛かりとする

**教職員との対話を基に、新たな視点を見いだそうとしている**

**教職員との対話を基に、新たな方法を見いだそうとしている**

「対話的な学び」が実現できた子どもの姿とは、子ども同士だけではなく、教職員、地域の人々、職業人、先哲など多様な他者との対話を通して現れるものである。その際、自分の思いや考えを伝えようとしたり、他者の意見や考え方に触れ、自分の考えを見直そうとしたりすることができるように、教師が手立てを講じることが重要である。

## 「深い学び」が実現できた子どもの姿

「深い学び」が実現できた子どもの姿の例を次に示す。

### 「深い学び」が実現できた子どもの姿の例

- ・ 思考して問い続ける
- ・ 知識・技能を習得する
- ・ 知識・技能を活用する
- ・ 自分の思いや考えと結び付ける
- ・ 知識・技能を概念化する
- ・ 自分の考えを形成する
- ・ 新たなものを創り上げる

具体的には…

#### 思考して問い続ける

見いだした問題を解決するために考え続ける中で、新たな問いに気付いている

得られた結果について再考している

よりよい結果に近づけようとしている

別解を見いだそうとしている



#### 知識・技能を習得する

意味を理解した上で知識を身に付けている

用途や目的に沿った適切な技能を身に付けている

## 知識・技能を活用する

既習事項と関連付けて考えている

既習事項と関連付けて理解している

既習事項と関連付けて作っている 試している 話し合っている

## 自分の思いや考えと結び付ける

読み取ったことと、自分の思いや考えを結び付けている

表現方法と、自分の思いや考えを結び付けている

調べて分かったことと、自分の思いや考えを結び付けている



## 知識・技能を概念化する

既習事項を本時の学習内容と関連付けて体系化し、より深く理解している



## 自分の考えを形成する

必要な情報を選択し、自分の考えを作り上げている

必要な情報を関連付けて、自分の考えを作り上げている

## 新たなものを創り上げる

感性や想像力を働かせ、新たなものを創造している

今までに身に付けたことを使って、新たなものを創造している

このように、「深い学び」が実現できた子どもの姿とは、頭や心の中の状況であるため、「主体的な学び」や「対話的な学び」に比べて捉えにくい。しかし、その姿を捉えることができなければ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は難しい。だからこそ、教師は「深い学び」が実現できた子どもの姿を捉えることができるよう、子どもを見る目を養っておく必要がある。

さて、ここまで、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点ごとに、それぞれの学びが実現できた子どもの姿の例を示してきた。ここで留意が必要なのは、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」それぞれが実現された姿が見られたとしても、単元や本時の目標が達成されているとは一概に言えないということである。言うまでもなく、授業で重要なのは単元（題材）や本時の目標を達成させることである。教師に求められるのは、目標を達成させるために必要な、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」それぞれが実現できた子どもの姿をイメージし、その実現に結びつく手立てを取り入れた授業をデザインすることである。

次章では、ここで示した具体的な子どもの姿を、国語科、社会科・地理歴史科・公民科、算数科・数学科、理科、外国語活動・外国語科（英語）の各教科等の中で実現される姿の例として表現していくとともに、それらの姿につながる教師の手立ての例を紹介していく。